

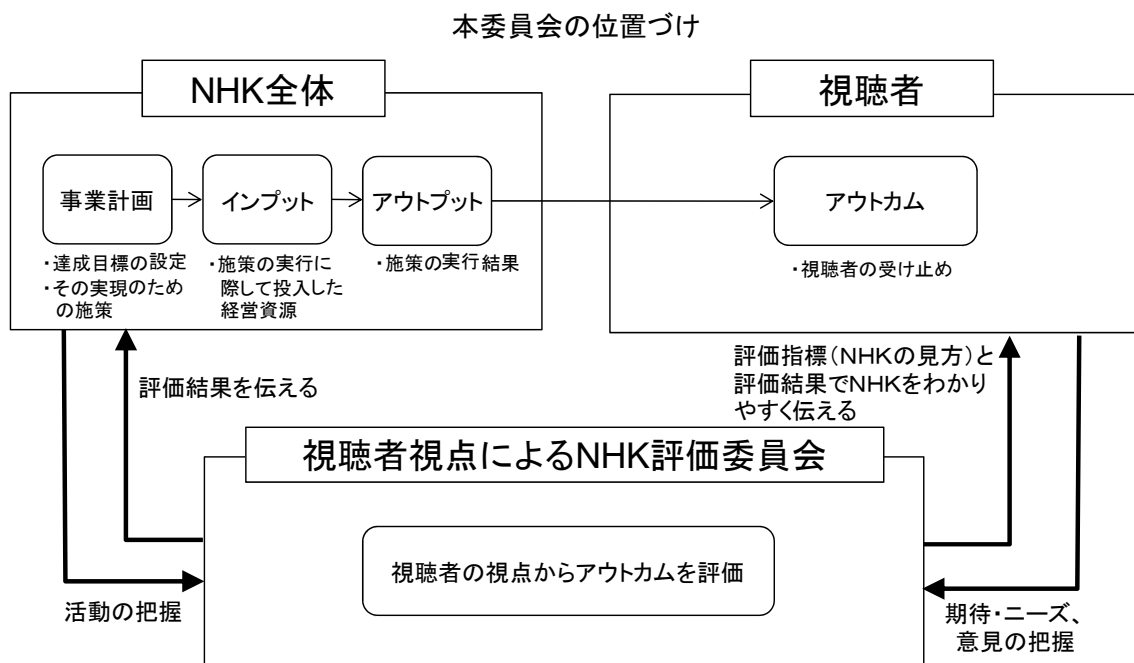
「視聴者視点によるNHK評価委員会」評価方針

2009年7月3日

視聴者視点によるNHK評価委員会

1. 本委員会の位置づけ

- ・本委員会は、前身である「NHK“約束”評価委員会」から引き続き、NHKの経営の透明性を図り、視聴者の意向を事業運営に反映させていく仕組み、視聴者の視点に立って、客観的にNHKを評価する仕組みを継続するために、平成21年4月1日に、NHK会長の諮問機関として設置された。設置期間は、平成23年度までの3年間である(その後については、必要に応じて見直される)。
- ・本委員会は、NHKを評価し、その結果をNHKに伝えるだけでなく、視聴者にNHKをわかりやすく伝えることで、視聴者とNHKをつなぐ役割を果たす。



2. 基本方針

①公共メディアの評価指標を、視聴者視点から開発し、NHKを評価する

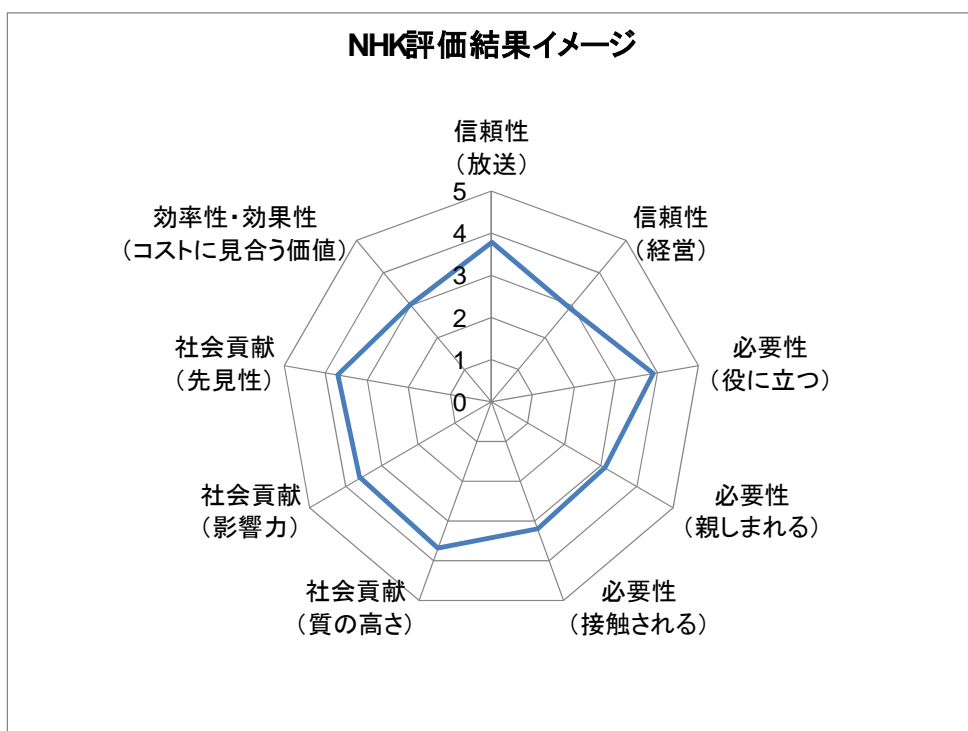
- ・顕在化している視聴者のニーズにとどまらず、潜在的な視聴者の期待を踏まえつつ、今後求められる公共メディアの価値を検討し、それに基づいた評価指標を開発する。
- ・公共メディアの価値の検討は、例えば「地域性」、「国際性」、「多様性」など、今後の社会における公共性を考える上で必要な観点から多角的に行う。
- ・評価指標は、それが指す意味や内容を極力具体的な表現の項目に詳細化し、視聴者にとってわかりやすいものとする。
- ・評価対象は、NHKが提供するサービスとそれを支えるNHK全体の活動とする。

②毎年の評価結果を公表し、視聴者から広く意見を募り、評価指標を発展させていく

- ・本委員会では、NHKの将来を見据えた評価もめざしており、仮説的な要素も加えた評価となる。したがって、積極的に評価結果を公表し、視聴者にも意見を募り、委員会の仮説を検証しながら、評価指標を発展させていきたい。

3. 評価方法

- ・評価は、本委員会が客観的に判断する。その際、開発した評価指標に基づいて実施する全国規模の視聴者調査の結果や、必要に応じて聴取する有識者からの意見等も踏まえる。
- ・評価結果は可能な限り数値化するとともに、定性的な評価も必要に応じて加える。評価結果の数値化は、各指標に関連する NHK の活動に対する視聴者の期待度・満足度、NHKの各種実績データをもとに、数値化ルールを設定する。それら評価の方法と理由は明示する。



4. 平成21年度の評価方針

○視聴者の顕在化しているニーズや潜在的な期待をベースとする評価指標(初年度版)を開発し、平成21年度のNHKを評価する

- ・本委員会の初年度にあたる平成21年度は、まずは、NHKに寄せられている視聴者の声の全体を俯瞰し、視聴者からのNHKへの顕在化しているニーズや潜在的な期待の分析に基づいて評価指標を開発する。
- ・視聴者の顕在化しているニーズや潜在的な期待より一歩進んだ、公共メディアとしてのNHKが今後求められる価値の観点からの評価は、可能な限り、仮説的に盛り込んでいく。

本委員会の指標開発のイメージ

公共メディアの価値の検討視点(例)		公共メディアの評価指標(例)					
		信頼性(放送)	信頼性(経営)	必要性(役に立つ)	必要性(親しまれる)	必要性(接触される)	社会貢献(影響力)
地域性	映像・音声を通じて、地域の伝統・文化を継承すること 地域の災害等に関する情報をいち早く正確に報道すること ...						
多様性	日本社会に散らばる課題を幅広くとりあげ国民の間で共有し、互いが議論できる素材を提供すること 多様な社会のあり方・価値観を紹介し、互いに寛容の精神や連帯感を持つことに役立つこと 従来の放送番組の枠にとらわれない新しい形式の番組を創造すること 放送と通信を融合した新しいタイプのサービスに積極的に取り組むこと ...						
国際性	国際的に評価されるような番組を提供すること 日本の出来事や歴史・文化、アジアの情報を世界に積極的に発信すること ...						
...	視聴者のニーズや期待の分析および今後の社会の見通しから検討(公共メディアの価値)						

価値の検討により、適宜、再編・追加(評価指標)

- ・公共メディアの価値と評価指標を対応付け、視聴者に直接評価してもらえる表現に変換(評価指標の具体的内容)
- ・各指標の評価の数値化(視聴者の期待度・満足度、NHKの各種実績データをもとに数値化ルールを設定)